

大会アピール（案）

すべての教職員、父母・保護者・府民の皆さん
力を合わせ、すべての子どもの成長・発達を保障する学校をつくりましょう

「上からの支配や命令では教育はよくなる。」この思いが教職員や教育委員などの教育関係者はもとより、国民の中にもひろがった一年でした。今年の「教育基本条例」撤回のとりくみの中で、あらためて「教育の原点」が再確認されたのではないのでしょうか。

一方1951年には50%未満であった高校進学率（全国）は、現在では98%を超えています。2010年度には公立高校授業料が不徴収となり、教育を社会全体で支える合意も大きくひろがりました。行政や政治の役割は、国民の願いにこたえ、どの子にも行き届いた教育を保障する少人数学級など、教育条件の整備を行うことです。この役割を忘れた不当な動きから子どもと教育・学校を守るため、これまでも増して共同をひろげ、力を合わせることを求められています。

教職員の皆さん 教育に携わる者として、私たちの最大の喜びは子どもたちの成長です。このことは父母・保護者と共通しています。見せかけの「特色づくり」や上から一方的に押しつけられた目先の目標では真に教育をよくすることはできません。目の前の子どもたちを人間として成長させることが一番肝心なことです。そのためには教職員一人一人が協力・共同して学校全体の教育力量を高め、すべての子どもの成長を保障する学校をつくる必要があります。条例の具体化などの攻撃が激しい中ですが、みんなで力を合わせて学校づくり・教育実践をすすめましょう。

父母・保護者、府民の皆さん 一人一人の子どもが、かけがえのない個性と成長発達の可能性を持っています。けれども成立させられた「教育基本条例」は学校を徹底した競争の場に変えようとしています。テストの点数などのモノサシだけで子どもを競わせるやり方は、多くの子どもの成長の芽を摘み取ってしまいます。

一部には学校・教職員と父母・保護者の対立をおおる人たちがいますが、それは子どもたちにとっては大きなマイナスです。対立よりも協力をひろげましょう。私たちは日本国憲法を教育の基本に据え、すべての子どもに、その子にあったやり方で成長を保障することが必要だと考えています。よりよい大阪の府立高校、そして教育をつくるため、生徒参加、父母・保護者・府民、教職員共同の学校づくりを、ご一緒にすすめましょう。

2012年5月19日

大阪府立高等学校教職員組合第83回定期大会